

視点制約と主語の選択に関する日中対照研究
——「～(テ)モラウ構文」とそれに対応する中国語を中心に

張 芑蕾

1. 問題提起

「～(テ)モラウ」構文¹の意味と使用場面について、『日本語教育事典』(1982、初版)の記述によれば、「動作を受けるものを主語とし、その動作を利益を受けるものとして表現する場合」に用いられる。

しかし、日本語の「～(テ)モラウ」構文は、主語を保ったまま中国語に翻訳されると、その訳文が不自然に感じられる場合がよくある。

- (1) ご迷惑をおかけしながら避難生活やトイレ事情の実態をお聞きしたが、どなたも親切に教えていただいた。(『トイレが大変!』)
- (2) ……だれでも迎え入れてくれる先生でした。描いた絵を持って行ったら、いいねとほめてもらい、ずいぶん自信になりました。(『読売新聞』)

(1)と(2)は主語が省略されているが、文脈から話者(「私」)であることが想定できる。次の(3)と(4)は、日本語の原文と同様に、行為の対象である“我(私)”を主語に据えた中国語訳文であるが、(5)と(6)は行為者である“大家(だれでも)”“老师(先生)”を主語にする中国語訳文である。前者は非文法的であるのに対して、後者は自然な中国語となる。

- (3) * 当我问及避难生活和厕所的实际情况时，我请大家都非常热心地告诉我。²
- (4) * ……我把自己画的画拿给老师看，看完后我让老师夸我画得好，我自信多了。
- (5) 当我问及避难生活和厕所的实际情况时，大家都非常热心地告诉我。
- (6) ……我把自己画的画拿给老师看，看完后老师夸我画得好，我自信多了。

上から分かるように、同じ出来事を表現する際、行為者と行為の対象のどちらかが、主語として選ばれるのか、日本語と中国語で異なる場合がある。では、なぜ日本語と中国語の間でこのような主語の立て方の違いが生じるのだろうか。本稿では、「～(テ)モラウ」構文と中国語

¹ 本稿で言う「～(テ)モラウ」構文は、「モラウ」の授受動詞の用法としての「～カラ/ニ～ヲモラウ」文とその敬語形式「～カラ/ニ～ヲイタダク」文、また、補助動詞の用法としての「～ニVシテモラウ」文とその敬語形式「～ニVシテイタダク」文を含む。便宜上、以下「～(テ)モラウ」構文と呼ぶ。

² 本稿で使われている記号の意味は次の通りである。「*」: その文が文法的に正しくないことを示す。「??」: その文が不自然であることを示す。「?」: その文がやや不自然であることを示す。

との対照に焦点を当て、日本語と中国語における主語の立て方の違いを明らかにしたうえで、視点の観点から解釈を試みたい。

2. 「～(テ)モラウ」構文の二分類

奥津・徐(1982)は、「～テモラウ」構文は表現内容から見て、行為を受ける側が「要求して利益を受ける」場合と、行為の受ける側が要求せずに利益を受ける場合とに二分できると主張している。さらに、次の(7)と(8)の場合は、行為の受ける側の要求の意味が明らかであり、前者の実例である。それに対して、(9)の場合、学生が依頼して先生に褒めてもらうことは通常あり得ない、同様に、(10)の場合、「中学校の生徒たちは頼んで先生に教えてもらうわけではない」ことから、行為の受ける側の要求が薄れてくる。(9)と(10)はいずれも後者の実例であると指摘している。

(7) わしはザッペルに逢って息子の既得権を認めてもらうつもりだ。(奥津・徐 1982)

(8) その辺は旅館がなかったので、私は或る荒物屋の二階に泊めてもらった。

(奥津・徐 1982)

(9) うわー、はずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。(奥津・徐 1982)

(10) 中学校ではぼくたちは伊藤先生に英語を教えてもらった。(奥津・徐 1982)

また、「～モラウ」構文は、奥津・徐(1982)には触れられていないが、その表現内容から見て、貰い手が与え手に要求してモノを受け取る場合と、貰い手が要求せずにモノを受け取る場合とに二分できる。次の(11)と(12)は要求の意味が明らかであり、前者の例である。(13)と(14)は、通常、収容者やお客さんに手紙を書くよう要求するのがあり得ないことから、後者の例である。

(11) 島に向かわせることも考えられた。しかし、それには、三宅島の村長と八丈島の町長から許可をもらわなければならない。

(『命を救え！愛と友情のドラマ』)

(12) 新しい企画を認めてもらうためには、それだけの根拠が必要です。

(『書ける！話せる！』)

(13) 手紙を受け取ったのは、放映から一週間後ぐらいでしたかね。まさか、収容者から手紙をもらえるとは思ってはいませんでしたし、いろんな意味でインパクトの強い企画でした。

(『あの日あの時の日本人』)

(14) お客さんからおいしかったと手紙や電話をもらうと、嬉しく励みになる、……

(『広報わたり』)

本稿では、便宜上、受ける側が要求して利益やモノを受ける「～(テ)モラウ」構文を「～

(テ) モラウ」構文 I、受ける側が要求せずに利益やモノを受取る「～(テ) モラウ」構文を「～(テ) モラウ」構文 II と称する。

3. 行為者に対する認識のズレ

奥津・徐(1982)は、「～(テ) モラウ」構文 I に焦点を当て日中対照の観点から研究し、それに対応する中国語の表現が兼語文であると主張している。

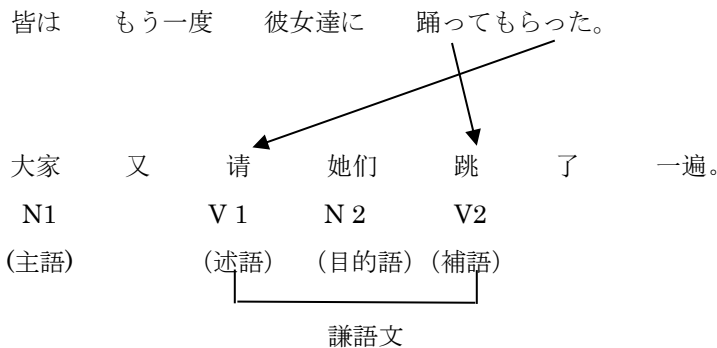
ところが、「～(テ) モラウ」構文 I は中国語の兼語文と、同じ出来事を表現しているにもかかわらず、日中両言語の構文の違いなどから、その表現内容の行為者に対する認識にズレが生じる場合が多い。

まず、中国語の兼語文の文構造を見てみよう。次の下線部の文は兼語文を含む文である。

(15) 她们跳舞跳得很好, 大家又请她们跳了一遍。 (劉ほか 1983)

彼女達はとてもうまく踊ったので、皆はもう一度彼女達に踊ってもらった。

(15) の文構造を図式して分析すると、次のようになる。



中国語では、通常先に主語が来て述語が後に来る(劉ほか 1983) ことも関係するが、日本語の補助動詞としての「テモラウ」に相当する「请(頼む)」は真性の動詞であるため、述語として認識される傾向がある。従って、それより先に来る“大家(皆)”が主語、それより後に来る“她们(彼女達)”が目的語、“她们”の次に来る“跳(踊る)”が補語成分として捉えられやすい。

(15) の場合、表現内容には“跳(踊る)”“请(頼む)”という二つの行為がある。述語動詞が表す行為を主行為とすると、中国語原文では、表現内容の主行為は“请(頼む)”であり、それを発するものが“大家(皆)”である。一方、日本語訳文では、“请(頼む)”に相当する「テモラウ」は補助動詞として現われるため、第 1 節で紹介した「～(テ) モラウ」構文の意味と使用場面でわかるように、表現内容の主行為が「踊る」となっている。それを発するものが“皆(大家)”ではなく、“彼女達(她们)”である。(15) では、中国語原文と日本語訳文は、主語の選択には違いが無いが、視点関係が異なっている。つまり、中国語原文では“请(頼む)”と

いう行為の行為者を主語に据え、行為者寄りの視点関係を示している。日本語訳文では「踊る」という行為の対象が主語の位置に来ている。行為対象である話者寄りの視点関係を示している。

ようするに、「～(テ)モラウ」構文Ⅰとそれに対応する中国語表現において、主語の立て方に相違がないが、視点の取り方が異なる。つまり、表現内容の主行為ないし行為者に対する認識のズレが生じるため、日本語原文では、行為の対象を主語に据えている。中国語訳文では、違う行為の行為者が主語となっている。

4. 主語選択の日中対応状況

『コーパス』³から「～(テ)モラウ」構文Ⅰと「～(テ)モラウ」構文Ⅱの用例を100例ずつ収集し、主語の日中対応状況を考察してみた。「～(テ)モラウ」構文Ⅰは中国語に翻訳されると、主語の立て方が変わらない傾向にある。

- (16) 僕は事務室から書類を食堂へ持って来て工場長に判を捺してもらった。

(『黒い雨』)

我把材料从办公室拿到了食堂，请厂长盖章。

- (17) 僕は会社へ問いあわせてからまた引受けたが、量が多くて全部の保管は出来ないの、そのうちの一部の炊入りの米は、田内という畳屋へ僕から依頼して預かってもらった。

(『黒い雨』)

我和厂里商量之后，答应了他的要求。因为数量多，不可能全部保管，所以把其中一部分草袋装的米，由我负责寄存在一个叫内田的人的草席铺里，剩下的就存放在工厂的仓库里。

一方、収集した「～(テ)モラウ」構文Ⅱの用例は、100例のうち、中国語訳文は行為者を主語に据えた文が76例、主語を保ったまま中国語に翻訳された文がわずか24例あり、行為対象を主語に据えた日本語の原文と際立った対照をなす。

- (18) 話し合いの後、実際に車椅子で利用できるかどうかチェックするために、若手の方と一緒に校舎内を回った。「一緒に、頑張りましょう」エレベーターに乗る際に、そう声をかけてもらった。

(『五体不満足』)

我们的交谈进行得很顺利。交谈结束后，教务主任让那位年轻教师带我去教学楼实地走一遭。我明白他是想看看我能不能在这样的环境里自如地行动。“小伙子，我们一起加油！”就在进入电梯的时候，年轻教师拍着我肩膀对我说了这样一句话。

- (19) 「もう二十何年前ですが。わたしがここへお嫁に来て、二日目に、お母さんに蔵の二階

³ 本稿は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、『北京語言大学 BCC 漢語語料庫』、『中日対訳コーパス(第一版)』(2003、北京日本学研究中心)を使用して用例を収集した。

で見せてもらいました。お嫁に来たのが、旧暦の七月一日で、七月二日に見せてもらいました。はっきり月日を覚えています」 (『黒い雨』)

“已经是二十几年前了。我嫁到这里来的第二天，母亲在仓库楼上给我看的。我出嫁是旧历七月一日，七月二日就给我看了。日期我记得很清楚。”

(20) 解っていただけないこと。どうしてもいまのわたくしの気持をわかっていただけないことです。 (『あした来る人』)

您理解不了。您怎么也不能理解我现在的心情。

(18)～(20)は、日本語の原文の主語が「私」であるにもかかわらず、中国語の訳文では、それぞれ「声をかける」「見せる」「解る」などの行為の行為者である“年轻教师(若手の方)”“母亲(お母さん)”“您(あなた)”が文の主語となっている。

(21) それでも清は可愛がる。折々は自分の小遣で金鰐や紅梅焼を買ってくる。寒い夜などはひそかに蕎麦粉を仕入れて置いて、いつの間にか寐ている枕元へ蕎麦湯を持って来てくれる。時には鍋焼餛飩さえ買ってくれた。只食い物ばかりではない。靴足袋ももらった、鉛筆も貰った。帳面も貰った。 (『坊ちゃん』)

可是阿清依然喜欢我，经常用自己的零钱买油煎包子和梅花糕给我吃。冬天的夜晚，她私下里买来面粉，做好汤面突然送到我的枕头旁边。有时还特地买来砂锅面条。不光吃的东西，她还送给我袜子和铅笔，送给我笔记本。

(22) 2月1日。この日から、主な私立大学の入学試験が開始される。いよいよ、受験シーズン到来だ。ボクの緊張も高まってくる。1～2週間すると、数人の友達から「○○大学、受かったよ」と歓喜の電話をもらう。 (『五体不満足』)

2月1日。从这一天开始，全国主要的私立大学的招生考试陆续展开，一年一度的考试季节来到了。我感到了一种莫名的紧张，而且越来越紧张。在接下来的一两周内，有好几个朋友打来电话，报告他们考上某某大学的好消息。

(23) 就学時検診は、動物園に近い状態だった。元気いっぱい幼稚園児たちが、所せましと駆け回る。慣れない環境のためか、悲鳴に近い声で泣き叫ぶ子もいた。そんななか、ボクは行儀よくひとつひとつの検査をまわり、担当していた先生方からは、お誉めの言葉までもらったそうだ。 (『五体不満足』)

入学检查的情形，就像逛动物园。朝气蓬勃的孩子们，在狭窄的过道跑来跑去。有些孩子则对陌生的环境感到惧怕，哭闹声此起彼伏。而我，坐在轮椅上，很有礼貌地在人丛中穿来穿去，医生竟对我称赞有加。

(21)～(23)の場合、行為者がそれぞれ「清」「数人の友達」「先生方」である。行為の対象が省略されているが、文脈や述語形式から話者であることが想定できる。それが主語の位置

に来ている。それにひきかえ、中国語の訳文はいずれも話者（“我”）を主語の位置から外し、行為者である“阿清（清）”“几个朋友（数人の友達）”“医生（先生）方”を主語の位置に据えた表現となっている。

中国語訳文には、主語を保ったまま中国語に翻訳された文 24 例あるが、次の (24) と (25) のような、行為者が省略されている表現は 8 例、(26) と (27) のような、行為者が連体修飾節に現れる表現は 16 例ある。

(24) この電話をもらったのは 11 時近くだった。 (『五体不満足』)

接到电话的时候已经将近 11 点了。

(25) それで無遅刻、無欠席の表彰状とフランス語の辞書をもらったの。

(『ノルウェイの森』)

就这样我得了一张不迟到不缺席的奖状，还有一本法语辞典。

(26) その後も、彼女からは何度か手紙をもらったり、旅行先のおみやげをもらったりした。

(『五体不満足』)

从那以后，我又收到过她的几封信，还接受了她旅游时从外地带回来的小礼物。

(27) そんなあるとき、夏休みの前だったか後だったか記憶は定かではないが、彼女から手紙をもらった。 (『サラダ記念日』)

这是暑假前呢，还是暑假后呢，现在已记不清了。一天，我收到了她的一封信。

(24) ～ (27) の中国語訳文は、行為の対象を主語に据えた表現となっているが、行為者が省略されている、または、目的語の連体修飾節に現れているため、中国語の視点制約とは矛盾が起こらない。視点の観点からの解釈は、詳しくは 5.3 にゆずる。

5. 主語の選択に関わる視点制約

5.1 久野 (1978) の視点理論

「視点」の研究は、従来、文学の分野として大いに研究されてきた。「視点」の概念を言語学の領域に取り入れて、構文の研究に応用したのは、日本では二十世紀後半、七十年代からのことである。先駆者として、大江三郎と久野暉の二人が挙げられる。両者の研究成果はその後の数多くの研究では理論的背景とされている。

久野 (1978) は「カメラ・アングル」という概念を用いて「視点」を説明している。「話し手が何処にカメラをおいて、この出来事を描写しているか」という「カメラ・アングル」は行為参加者のうちどちらに近い位置に設定されるかを「共感度」(E) で表す。たとえば、X と Y が関与する出来事を描写する場合、話者が X に近い位置にカメラを置いて出来事を捉えれば、話者の「視点」は X 寄りである。E(x) > E(y) で表わす。逆に、話者が Y に近い位置にカメラを置いて出来事を捉えれば、話者の「視点」は Y 寄りである。E(y) > E(x) で表わす。

また、久野 (1978) は、二人以上の人物が関与する出来事を表現する際、日本人はそのうち

どちらに視点を置いて表現するかについて研究し、発話当事者の視点ハイアラキーを提案した。

発話当事者の視点ハイアラキー：話し手は常に自分の視点をとらなければならない、自分より他人寄りの視点をとることができない。

さらに、話者の「視点」が表層構造としての文のどこに置きやすいかをはっきりさせることが目的で、「太郎の弟」のような対称詞、「受身形」という構文法パターン、授受動詞「クレル・ヤル」(又、その補助動詞としての用法)、「モラウ、聞ク」のような、行為主体を主語の位置から外す動詞、「出会う」(又、「……シ合う」を附加することによって作られる複合相互動詞)といった五種類の言語手段を考察したうえで、次のような表層構造の視点ハイアラキーを提案した。

表層構造の視点ハイアラキー：一般的に言って、話し手は、主語寄りの視点を取ることが一番容易である。目的語寄りの視点をとることは、主語寄りの視点を取るのより困難である。受身文の旧主語(対応する能動文の主語)寄りの視点を取るのは、最も困難である。

一般的に、表層構造が示す視点関係と、発話当事者の視点ハイアラキーが要求する視点関係と一致すれば、文が自然に感じられる。逆の場合、文が不自然に感じられる。この二つの視点ハイアラキーは視点制約として日本語主語の選択に重要な影響を与えているとされている。

5.2 中国語における視点

久野(1978)は、「発話当事者の視点ハイアラキーは、話し手は、自分の目にカメラを置いて、文を作り出さなければならない、と述べている訳で、全く当然の制約であるから、その汎言語性は、かなり強いものと予想される」(p147)と述べている。しかし、中国語においては、発話当事者の視点ハイアラキーに反する例が数多く見られる。

張(2001)は、日本語と違って、「中国語では一人称名詞は主語の位置に来るだけではなく、従たる動作主の位置にもごく自然に来る」と述べている。“妈妈,衣服被我弄脏了(直訳:お母さん、服が僕に汚されちゃった)”に見られるように、久野(1978)の発話当事者の視点ハイアラキーが中国語に働かないと指摘している。

彭(2008)は、類型論の観点から、日本語の視点制約が中国語には当てはまらないと指摘している。

また、張(2006)は、中国語の視点制約として、「一般的に言って、話し手は、常に行為者寄りの視点をとらなければならない。被害など特別な感情色彩を表す場合を除いて、行為者より行為対象寄りの視点をとることができない」と述べている。

5.3 視点制約と主語の立て方

視点の観点から第 4 節の考察結果を見ると、「～(テ)モラウ」構文 I は、主語を保ったまま中国語に翻訳される傾向にある。この場合、行為を受ける側が要求して利益を受けるため、それに相当する中国語では、主語となる人物が利益を受ける側であると同時に、「要求する」という行為の行為者でもある。従って、主語の立て方が、行為者寄りの視点制約が要求する視点関係とは矛盾がない。一方、「～(テ)モラウ」構文 II は、行為の受ける側が要求せずに利益を受けるため、中国語の訳文の多くが行為者を主語に据えた表現となっている。行為者寄りの視点関係を示す。つまり、いずれの場合も、中国語の主語の立て方が行為者寄りの視点制約が要求する視点関係と一致している。

ところが、日本語のやりもらい表現に相当する中国語は、視点制約がない“給(あげる/くれる)”“送(贈る/与える)”などのほかに、“接受(受け入れる)”“接到(もらう)”“收到(受け取る)”のような行為対象寄りの視点を要求する動詞がある。やりもらい行為の受ける側を主語に立てた表現は中国語にはないわけではない。次の(28)と(29)はその例である。

(28) 我接到了妈妈的来信。 (自作)

母から手紙をもらった。

(29) 过生日的时候，我收到了朋友的礼物。 (自作)

誕生日の時、友達からプレゼントをもらった。

また、『コーパス』から収集した「～(テ)モラウ」構文 II の用例のうち、行為の対象を主語に据えた中国語訳文も 24 例見られた。考察の便宜上、第 4 節に挙げた用例の(26)、(27)を(30)、(31)として下に再掲する。

(30) その後も、彼女からは何度か手紙をもらったり、旅行先のおみやげをもらったりした。

(『五体不満足』)

从那以后，我又收到过她的几封信，还接受了她旅游时从外地带回来的小礼物。

(31) そんなあるとき、夏休みの前だったか後だったか記憶は定かではないが、彼女から手紙をもらった。 (『サラダ記念日』)

这是暑假前呢，还是暑假后呢，现在已记不清了。一天，我收到了她的一封信。

(28)～(31)は、行為の受け手である“我(わたし)”が主語の位置に来ているにもかかわらず、文が不自然にならない。それは、行為者を表す名詞句がいずれも連体修飾節の位置に来ているためであると考えられる。(28)、(29)の場合は“妈妈的来信(母からの手紙)”“朋友的礼物(友達のプレゼント)”であり、(30)、(31)の場合は“她的几封信(彼女の何通の手紙)”“她旅游时从外地带回来的小礼物(彼女が旅行先から持ってきたおみやげ)”、“她的一封信(彼女からの一通の手紙)”になっている。それを奪格に相当する位置において表現すると、特殊な

文脈を除いて、(32)～(35)のように、不自然な感じがする。

(32) ? 我从妈妈那里接到了来信。

(33) ? 过生日的时候, 我从朋友那里收到了礼物。

(34) ? 从那以后, 我又从她那里收到过几封信, 还从她那里接受了旅游时从外地带来的小礼物。

(35) ? 我从她那里收到了一封信。

以上のことを視点の観点から説明すると、(28)～(31)では、行為者が奪格に相当する位置から外されたことによって、それにある行為者というイメージが薄れてくる。従って、E(行為の対象) > E(行為者)という視点関係が成立しにくくなり、行為者寄りの視点制約違反を回避することができる。こういう意味では、中国語では、行為者が連体修飾語に現われることが視点制約違反を回避する言語的手段の一つと言えよう。

参考文献

相原林司(1986)「受給表現と視点」『国語科教育』33 全国大学国語教育学会

大江三郎(1975)『日英語の比較研究——主観性をめぐって』南雲堂

奥津敬一郎・徐昌華(1982)「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現」『日本語教育』46号 日本語教育学会

奥津敬一郎(1983)「授受表現の対照研究——日・朝・中・英のひかく」『日本語学』4号 明治書院

張芑蕾(2006)「他動詞文の主語の性質に関する日中対照研究——話者の視点を中心に」修士論文 早稲田大学大学院日本語教育研究科

張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク

日本語教育学会編(1982)『日本語教育事典』大修館

彭広陸(2008)「類型論からみた日本語と中国語——視点固定型の言語と視点移動型の言語」『中日理 論言語学研究会第12回研究会発表論文集』

益岡隆志(1992)「表現の主観性と視点」『日本語学』8月号 明治書院

刘月华・潘文娛・故初(1983)『实用現代漢語語法』商務印書館

刘月华・潘文娛・故初(1988)『現代中国語文法総覧』相原茂監訳 くろしお出版

近代東西言語文化接触研究会

本会は、16世紀以降の西洋文明の東漸とそれに伴う文化・言語の接触に関する研究を趣旨とし、具体的には次のような課題が含まれる。

- I. 西洋文明の伝来とそれに伴う言語接触の諸問題に関する研究
- II. 西洋の概念の東洋化と漢字文化圏における新語彙の交流と普及に関する研究
- III. 近代学術用語の成立・普及、およびその過程に関する研究
- IV. 欧米人の中国語学研究（語法、語彙、音韻、文体、官話、方言研究等々）に関する考察
- V. 宣教師による文化教育事業の諸問題（例えば教育事業、出版事業、医療事業など）に関する研究
- VI. 漢訳聖書等の翻訳に関する研究
- VII. その他の文化交流の諸問題（例えば、布教と近代文明の啓蒙、近代印刷術の導入とその影響など）に関する研究

本会は、当面以下のような活動を行う。

1. 年3回程度の研究会
2. 年2回の会誌『或問』の発行
3. 語彙索引や影印等の資料集（『或問叢書』）の発行
4. インターネットを通じての各種コーパス（資料庫）及び語彙検索サービスの提供
5. (4)のための各種資料のデータベースの制作
6. 内外研究者との積極的な学术交流

会員

本会の研究会に出席し、会誌『或問』を購読する人を会員と認める。

本会は、言語学、歴史学、科学史等諸分野の研究者の力を結集させ、学際的なアプローチを目指している。また研究会、会誌の発行によって若手の研究者に活躍の場を提供する。学問分野の垣根を越えての多くの参集を期待している。

本会は当面、事務局を下記に置き、諸事項に関する問い合わせも下記にて行う。

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部中国語中国文学科
内田慶市研究室 (Tel. ダイヤルイン 06-6368-0431)

E-mail: u_keiichi@mac.com

URL: <http://keiuchid.sakura.ne.jp>

代表世話人：内田慶市